

今後の水環境保全のあり方について
(答申)

平成 24 年 2 月 27 日

川崎市環境審議会

はじめに

平成 23 年 7 月 19 日、川崎市長から環境審議会に「今後の水環境保全のあり方について」諮問がなされ、専門的な審議を行う必要があることから、具体的な審議について、公害対策部会に付議した。

川崎市では、これまで、水環境保全対策として法・条例による規制を行うとともに、「川崎市河川水質管理計画」を平成 5 年 3 月に、「川崎市地下水保全計画」を平成 14 年 7 月にそれぞれ策定し、水質の改善を主体とした施策を展開してきており、河川水質の改善等、一定の成果が得られている。

しかしながら、水環境は、主に水量、水質、水生生物、水辺地の 4 つの要素で構成されており、これらは相互に密接に関連している。このため、更なる水環境の改善を図るには、4 つの構成要素を総合的に捉えた計画的な施策の推進が必要と考えられる。また、近年の宅地化等土地利用の変化に伴い、健全な水循環が損なわれることにより、良好な水環境が減少する等の問題も生じている。

公害対策部会では、3 回にわたり議論を行い、川崎市がこれらの課題を克服し、今後、良好な水環境を保全するため、取り組むべき施策について様々な視点から審議を行った。

このような審議を経て、このたび、今後の水環境保全のあり方について、環境審議会として一応の結論を得たので、ここに答申する。

目 次

はじめに

第1章 水環境に関わる歴史の変遷について

1 川崎市民と水環境との関わり	1
(1) 二ヶ領用水	1
(2) 久地円筒分水	1
(3) 渡し(渡船)	2
(4) 大師の海	3
2 河川・海域における公害問題の発生	3
(1) 産業公害の発生	3
(2) 都市生活型公害の顕在化	4

第2章 これまでの水環境の取組と現状について

1 概要	5
(1) 法・条例による規制	5
(2) 河川水質管理計画	6
(3) 地下水保全計画	6
2 排出負荷量削減対策等	7
(1) 下水道の普及	7
(2) 工場・事業場排水対策	7
(3) 水質事故への対応	9
3 水質の現状	10
(1) 河川の水質	10
(2) 海域の水質	11
(3) 地下水の水質	13
4 河川の流量	14
5 湧水地	15
6 地下水と地盤沈下	17
(1) 地下水	17
ア 地下水位	17
イ 地下水揚水	18
(2) 地盤沈下	18

第3章 国等の動向について

1 国の動向	19
2 他都市の動向	20

第4章 水環境の保全に向けた課題について

1 水量、水質、水生生物、水辺地を総合的に捉えた施策の推進	21
2 健全な水循環の確保	22
(1) 川崎市における水循環の現状	22
ア 雨水浸透面積の減少	23
イ 河川流量・湧水箇所への減少	24
ウ 河川流量等に関するシミュレーション	26
(2) 生活環境への影響	27

第5章 良好な水環境保全に向けた総合的な施策の推進について

1 良好な水環境保全に向けた目標	28
2 新たな計画の策定	30
(1) 水量に関する方策	30
(2) 水質に関する方策	31
(3) 水生生物に関する方策	31
ア 生物多様性に関する取組	31
イ 水生生物を取り巻く状況	32
ウ 今後の方向性	33
(4) 水辺地に関する方策	34
ア 現況	34
イ 今後の方向性	34
(5) 施策推進のための方策	35
ア 4つの構成要素の関連性を活かした市民協働の推進	35
イ 国・近隣自治体との連携	36
ウ 関係施策・計画との連携、整合性	36
エ 評価システムの構築	36
オ 川崎市の水環境保全を通じた国際貢献	36

第6章 雨水浸透能力の回復に向けた取組の推進について

1	川崎市の雨水浸透面積の現状	37
2	川崎市の取組状況	39
3	他都市の取組状況	41
4	他都市の成功事例	43
5	川崎市における今後の取組の方向性	44
6	取組の有効性を示す指標	45

第7章	まとめ	47
-----	-----	----

【参考資料】

1	(仮称)水環境保全計画の策定に向けた基本的な考え方について	1
2	河川の水質	2
3	海域の水質	5
4	地下水の水質	7
5	下水道整備	10
6	雨水浸透の検討(抜粋版)	12